

三月三十一日

早稲田バウハウススクール佐賀は今日で終了。昨日の最終講評会は最後まで残った六〇名程の学生の全ての作品を批評。佐賀で四回目の春のワークショップの質は高かった。不思議なもので、これが学校の始まりなのが良く実感できる。このような事をしばらく続けてゆくと伝統と呼ばれるようなものが生まれるのだらう。

堀干し祭りの実行を含めて、子供のＩＴ教室、伊万里ものづくり教室の開催と盛り沢山な内容であった。やってみて、これが一人で出来ることの限界であろうと知った。早く、スタッフが育つて欲しいとつくづく思う。

スクール開校期間中に川崎市のプロジェクトを同時にこなさなければならず、東京へ三回出掛けた。昨夏のワイマール往復二回よりは楽であったが、これも又、ほぼ体力の限界である。玄界灘の近くで限界の連続をやると思う、洒落ですよコレワ。

佐藤健が我孫子の病院から駆けつけてくれて、良い講義をしてくれた。有難い。真栄寺境内に御堂を作ってくれと頼まれた。見事な野の花のような御堂を作ってやろうと考えている。

三月十四日から十八日間の佐賀生活であったが、古川貞二郎内閣副官房長官、間島公三郎佐賀県人会会長、そして台北の李祖原

ベルリンからライター、ワイマール・バウハウスからカリン・ヤシケなど、様々な人物が集まって下さった。感謝したい。そう言えば山田脩二も飛び入りで乱入してきたな。

二週間前の事が遠い昔のように思えるが、これはどうした事なのだらうか。

色んな事をやり過ぎる欠点もここまでくれば我ながらもう後戻りできるボーダーを超えている。ますます、やり過ぎるしか無いだらう。六月TOKYO・GAでのスクール開校、そして、プノンペンへのひろしま平和スクール。何とか乗り切らねばならない。東京に帰ると、フィンランドの連中が来てるんだね全く。しかし、栄久庵さんも俺以上に大変なんだろうと思うと、やるしか無いのでしよう。

今日は安藤忠男さんの講義と、井本知事の授与式でスプリングスクールは終了。

早朝、ホテルの窓から朝日がゆっくりと登るのを感じていると、休まる。